

熱海港海釣り施設

トウゴロウイワシ

私の次男郷生の次男夕里が私の影響で釣りにはまっている。それに刺激されてか、長男直紀の長男健梧も釣りを覚えた。十一月二十五日（土）に熱海の海釣り施設に健梧らと釣りに出かけた。

ここは初めてではなくその前の週に熱海の保養所に泊まった際、釣り竿を持参で下見してあった。熱海後楽園から200メートルほど延びている防波堤で、以前は市民に開放していたが、高波で水難事故があつてから熱海市は柵をして、ライフジャケットを着ないと入れささない。もちろん入場料をとり、三百円か見学は百円である。そのかわりライフジャケットは貸してくれる。駐車場は500円、事務所にはコマセとエビ餌は売っている。この施設の有料化については、市民や市会議員、の間で賛否両論が出て当分治まりそうにない。岸壁でも囲いの外なら無料で十分釣れている。

それはさておき、その日はイワシの群れがいて、サビキで簡単に釣れた。一見、ウルメにみえたので、50匹

持ち帰った。まづ、ウルメなら食べるはず猫のナナちゃんを食べない。凶鑑で調べるとウルメでなさそう。内湾にはいつてくるのは4月から5月に限られると書いてある。熱海の施設に電話して尋ねたらそれはトウゴロウイワシだと教わった。どのようにして食べるのかと尋ねたら、食べたことがないという。正確にはボラの仲間だそう。

意外とトウゴロウイワシを知っている人は少ない。江ノ島では井上餌店のおかみさんも知らなかった。トウゴロウイワシに関して、ネットで詳しく説明しているホームページがあった。

<http://www.3.ocv.ne.jp/uras/tougorou.html>

我が家の外猫「もえね」ちゃんはこのトウゴロウイワシを数日に分けてすべて平らげたので、以後その名を「もえね」改め「トウゴロウ」と呼ぶことにした。

喪中通知

十二月になると、喪中通知の葉書が届く。そのなかに岐阜の尾島昭次さんがいた。奥様の綾子さんからの通知には

「本年一月十五日に夫昭次が七十八歳にて四年弱の癌との闘病の末永眠いたしました。最後に「アッ」と声を出しての旅立ちで、家族全員で見送ることが出来ま

した」と述べられていた。亡くなってから十ヶ月後に知った。

尾島昭次さんは男兄弟のいない私にとっては昭次兄ちゃんだった。昭次兄ちゃんは私の叔父正三の妻登久子の弟で、旧制大阪高校から京大医学部に入学され、その後岐阜医科大学で病理学の教授をなさっていた方だった。

登久子姉の実家は近鉄坂大阪線の長瀬にあつて、そこに数回連れられてもらったこともあり、家の間取りも覚えている。男三兄弟に遊んでもらった。私の中学三年の夏北アルプスの白馬岳登山の昭次さんのパーティに入れてもらった。昭次兄ちゃんは学生時代、相川の我が家で家族麻雀をしばしば興じた。我が家の家族麻雀は母が嫁入り道具として四国から持ち込んだ牌で、母が子供たちに教えたアールシアル計算だった。それが昭次さんが京大からもちこんだリーチ麻雀にかわった。当時の家族には、伯父の大川一善さん、その友人の宮内実さん（故）・百合子姉の義弟の福井賞三さん、吉川芳郎の戦友の大道岩生さん、親類の児玉晃（故）さんらが下宿していた。麻雀のメンバーは私と母と昭次さんは当然として、四人目は不二子姉（故）が多かった。私の京大入学時には健康診断でお世話になった。実は学科試験よりも身体検査ではねられるのを心配していたからである。

記憶は次から次へとよみがえり、東海銀行の支店長だった昭次氏の実父が亡くなったとき、その原因だった寄生虫を取り除けなかったことを、医者だった昭次氏が悔やんでいたこと。綾子夫人にはお目にかかったことはないが、バイオリニストである夫人の演奏をラヂオで聴くように話してくれたこと。大学の文化祭で医学部は解剖展をするのを案内してくれた。

昭次氏に最後にあつたのは、大阪長柄の光明寺で母の四十九日をしたときだった。百九歳で亡くなった昭次氏の母孝さんのときも、亡くなってからだいぶたつて、登久子姉に電話した時知った。

喪中通知でこんなに悲しくなつたのは久しぶりだ。

劇作家 木下順二氏の訃報はテレビや新聞で報じられた。亡くなってから約一ヶ月後の報道だった。代表作に夕鶴と並んで「オットーと呼ばれる日本人」が揚げられていた。オットーと名乗っている私にとってはショックだった。読んだことも見たこともなかった。

早速ネットで調べると、ゾルゲ事件を題材にして劇で、オットーとはスパイ尾崎秀実のことらしい。最近では米倉斉加年の演出で紀伊國屋サザンシアター新宿南口で演じられた。

ネットで知ったあらずじは

いわゆる満州事変の勃発した1930年代のはじめ、新聞の上海特派員、オットーと呼ばれる日本人が、ジョンソンと呼ばれるドイツ人の活動に協力します。さらに数年後、東京でオットーは、日本を無謀な戦争にまきこませないため、こんどはすすんでジョンソン機関に身を投じます。日本が帝国主義の植民地争奪戦でもみくちやにされないように、なんとか世界戦争をくいとめようと命をかけるのです。

昭和四十年代のはじめ、太平洋戦争一触即発のとき、いまや中国問題の評論家として総理に信頼され内閣にも発言権をもつオットーは、しかしついに逮捕されてしまいます。ジョンソンに祖国はないが、オットーは日本という祖国をもつ正真正銘の日本人でした。

ダビンチコード

先週から、ダビンチコードを読み出した。角川書店のハードカバー 上下2巻だ。ダン・ブラウンのこの作品は大ヒットで、映画にもなり、最近DVDも¥1000円で売れている。単なるサスペンス小説ではなく、キリスト教徒を怒らせることが書いてあることは知っていた。私のキリスト教に関する知識は、三年前に独学で一気につけた。そのきっかけはクヌースの「コンピュータ科学者がめったにかたらないこと」を読んだときと、中

東紛争の話題で「イスラムとユダヤの関係」について、いかに常識が乏しいかわかった。角川書店の「旧約聖書の歴代王朝」はとくに気に入った。

その結果旧約聖書に関する雑学部門ではかなり腕をあげた。旧約聖書を英語で old Testament といい、 bible とはいはない。とくに Testament の T は大文字ではじめること。ピラトの職業は英語で プロトコル といった。などなど。

それだけ勉強していたにもかかわらず、ダビンチコードの話はついてゆけない。娼婦とも言われるクラナダのマリアも初耳だった。ネット上では聖女マリアさまは十人もいた。それもそのはず、洗礼をうけた女性はずべてマリアと名乗るからだ。

ダビンチコードの本は近所の友人が貸してくれた。それを読み出したら、別の友人が、遠隔操作でわたしのパソコンにダビンチコードをアップロードしてくれた。具体的にいうと、わたしのパソコンは otto4yoshi/dip.jpg と言う名のサーバーで、許された人はアクセスできる。そこに daveci-code というディレクトリを創り、800個の .jpg や .mfd 形式 micromedia firework doc をおいたのだ。これらは windows FAX viewer で眺めることができる。スライドショー指定にしておけば本のページをめくる手間も省ける。困ったもんだ。

追記 トウゴロウのホームページから

相模湾きつての外道集団。お目はパッチリ、かわいらしい顔しているけどすぐ食いついて節操がないから悪いサカナ。イワシがニシンの仲間なのに対して、このトウゴロウはボラの仲間。背ヒレが2つに分かれているのと、何と言ってもウロコがガワガワで、製図用のインクのような臭いがします。それにしても、トウゴロウさんという人が名づけたのか、こしらえたのか繁殖力旺盛、悪さ全開、港内支配、たいした連中です。

■釣れる時イワシが釣れた！ とたいていの人は喜ぶ。ちよつと待って！ 体全体がきらきらシルバーで、手にもつてうろこがはがれなかつたら、おめでどう！ この魚です。皮をむくとサヨリのような上品な白身なので期待して食ってみたら、汗のすえたようなひどい味。この魚ばかりが入れ食っているようなら、この日はあきらめて、ネコの餌として確保すべし。

■追記ネコサビキをはじめた人が、熱海の堤防に行つたとして、まず真つ先にかかってくるのがこのサカナか、キタマクラかネンブツダイ。熱海の3悪。どうだい！ ここは釣れるだろうと。季節を問わず、天気を問わず、釣り人を問わず、エサを問わず：先日、本屋さん

で、釣り場ガイドに目をとおしていたのですが、熱海港の写真とキャプションを見て愕然としました。「冬でもイワシが釣れる熱海港」の写真の主は明らかにトウゴロウイワシ！ トウゴロウイワシをさばくと実にきれいな白身であります。ウロコは固くても手で実に素直にバリバリと剥けます。イワシのようにウロコがはがれることもないし、でてくる身はこれまたサヨリを彷彿とさせるような青白い白身。

さて、その白身をひとつまみ口に入れてみますと：どんな味かつて、皆さん、味の素をそのまま手にとつて口にしたことありましようか？ とてつもなく不味いですよね。しかもくどく後に残ります。トウゴロウのマズ味は味の素とは少し異なりますが、ちよつと似ている味と思います。しかし、逆に言えば味成分の強いサカナというわけで、たまたま人間の口にあわないだけのことです：ちなみにネコ衆は喜んで食べます：で！ このマズ味をうま味に転化できればおかず釣り冥利につきますですが：

平成十八年十二月七日

〒251 0037 藤沢市鵠沼海岸6-16-4

吉川竹四郎
Tel.(0466)36-1493